

平成23年度富里市地域公共交通会議（第5回）会議録

日 時	平成23年3月19日（月） 午前10時～	場 所	富里市役所本庁舎 3階第3会議室
出席委員	石橋規委員、飯高貞夫委員、池田和弘委員、内山雅広委員、上草とよ委員、佐々木努委員、丹さく子委員、山崎一也氏代理出席、鶴沢尚夫委員、篠崎秀樹委員、中野善敦委員		
欠席委員	田中希生委員、長谷川英利委員		
事務局	林田総務部長、 総務部企画課：中川課長、相川副主幹、栗原主査、池田主査補		
内 容	<p>1. 開会</p> <p>2. 会長あいさつ</p> <p>3. 議題 （1）地域特性に合った支線系統の導入パターンについて【事務局説明】</p> <p>「質疑・意見」</p> <p>【委員】 このパターンの概算費用は、各地域の費用になるのか。</p> <p>【事務局】 全市的に見た場合の費用においては地域ごとの費用を積み上げる訳ではない。全市で導入した場合は共通費用が掛かるため、その分は単純に概算費用に上乘せされる訳ではない。よって、この概算費用は単独の地域において、このパターンの場合ではこの程度の費用が掛かるという一つの目安である。</p> <p>【委員】 例えば、富里・根木名地域のパターン3だと550万円掛かるというが、その内訳はどうなっているのか。全市カバーなのか。</p> <p>【事務局】 全市カバーではない。富里・根木名地域で決まった路線をタクシーのように車を走らせた場合に、概ね550万円程度の費用が掛かる。また、他の地域でのパターンでは、台数などの変動があり単純に足すだけの計算にはならない。</p> <p>【委員】 これはP9にあるエリアのゾーン内での費用算出なのか。</p> <p>【事務局】 地域によって若干異なる。</p>		

**【委員】**

基本的に平日のみを対象とした試算なのか。

**【事務局】**

平日のみの運行とみなして算出したものである。

**【委員】**

もしも小型バスでの運行となると、4つの地区においてバスが6台必要になるが、現行では何台で運行しているのか。

**【事務局】**

現行では2台である。

**【委員】**

2台でこの4地区を走行しているという事は了解した。

では、今回は地域を4つに区分しているが、1台当たりの1日の走行距離数はどのくらいなのか。

**【事務局】**

例を挙げると、P12にある「運行計画」では1便当りの距離が20kmであり、1時間に1本と想定した場合には1日約7便となるため、走行距離は140kmとなる。

先ほど話しに出た経費についての補足であるが、この費用は車両を購入した場合のものである。様々な事例を見ても、小型バスであれば1700万円ほどは掛かる。しかし、購入する以外にもリースをするパターンなどもある。今回はあくまで購入した場合の最大費用を算出したものである。

今後は、費用の抑制についても検討していくべきである。

**【委員】**

現在の運行費用より高額になるのか。

**【事務局】**

概ね1時間に1便の運行であれば、現行より費用が高くなる。現行は周辺地域の運行距離などを比較しても比較的安価である。

**【委員】**

全てを行うとなると莫大な費用が掛かってしまう。最大限の予算を確保することができるのか。

**【事務局】**

市の具体的な予算の上限は出ていない。運行の効果と費用については、今後、具体的に路線を検討する際に、どの程度可能であるかも踏まえて検討したい。

**【委員】**

4つの地域から成田・酒々井・八街へと放射状に出て行く状態である。富里が発展していないのは、4つの地域が市の中心に向うという考えが少ないからではないか。それこそが市の発展に繋がらない大きな原因だと考える。そして日吉台はすでに交通が便利であるということで除外されているが、日吉

台の住民も市の中心に足を運ぶ事はある。そのようなパターンを考慮することなく、外への流出ばかりを考慮する事は余りにも偏見があり過ぎる。本当に市民の事を思うのであれば、市の中心に向かう事も考慮すべきではないか。つまり、個別にではなく4つの地域を循環させる事は考えられないのか。

**【事務局】**

今回は主にブロック毎の検討であるが、路線を検討する際は利用が見込める地域は検討していく。必ずしもブロック内で完結するパターンにはならない。

**【委員】**

将来的には、もう少し市内に向かう経路の考案をしなければ、富里の発展には繋がらないと考える。

**【委員】**

P9にある七栄Sの「S」とは何処を指しているのか。

**【事務局】**

七栄スクエアの「S」であり、七栄交番付近を示している。

**【委員】**

バスが七栄を多く通行している事を踏まえて考案されたのだと思うが、無料駐車場や高速バスが走行している富里バスターミナルを起点にしてはいかがだろうか。この利点を活かさない手はないと考える。

**【事務局】**

資料P9はあくまでデマンドのイメージである。七栄Sと記載したのは、そこまで出ると様々なブロック毎の乗り継ぎが可能であるという表現であり、当然、交通拠点として活用することを考えている。

**【委員】**

現況の利用客が少ない循環バス路線であるが、それを見直す事が定期バスの経費削減にも繋がるのではないか。

駅への乗り入れも考慮して富里バスターミナルを活用したらいかがだろう。

**【事務局】**

意見として承りたい。

4. その他

次回は、具体的な運行計画の検討を議題として、新年度の5月頃を開催予定とする。

5. 閉会

以上